

家庭教育支援に関する評価 ～子育て支援、SSW、ネットワークの視点から～

大阪府立大学 山野則子

(大阪府、堺市、茨木市、尼崎市SSW事業SV)

SSWのHP: <http://opu-collabo.com/ssw/>

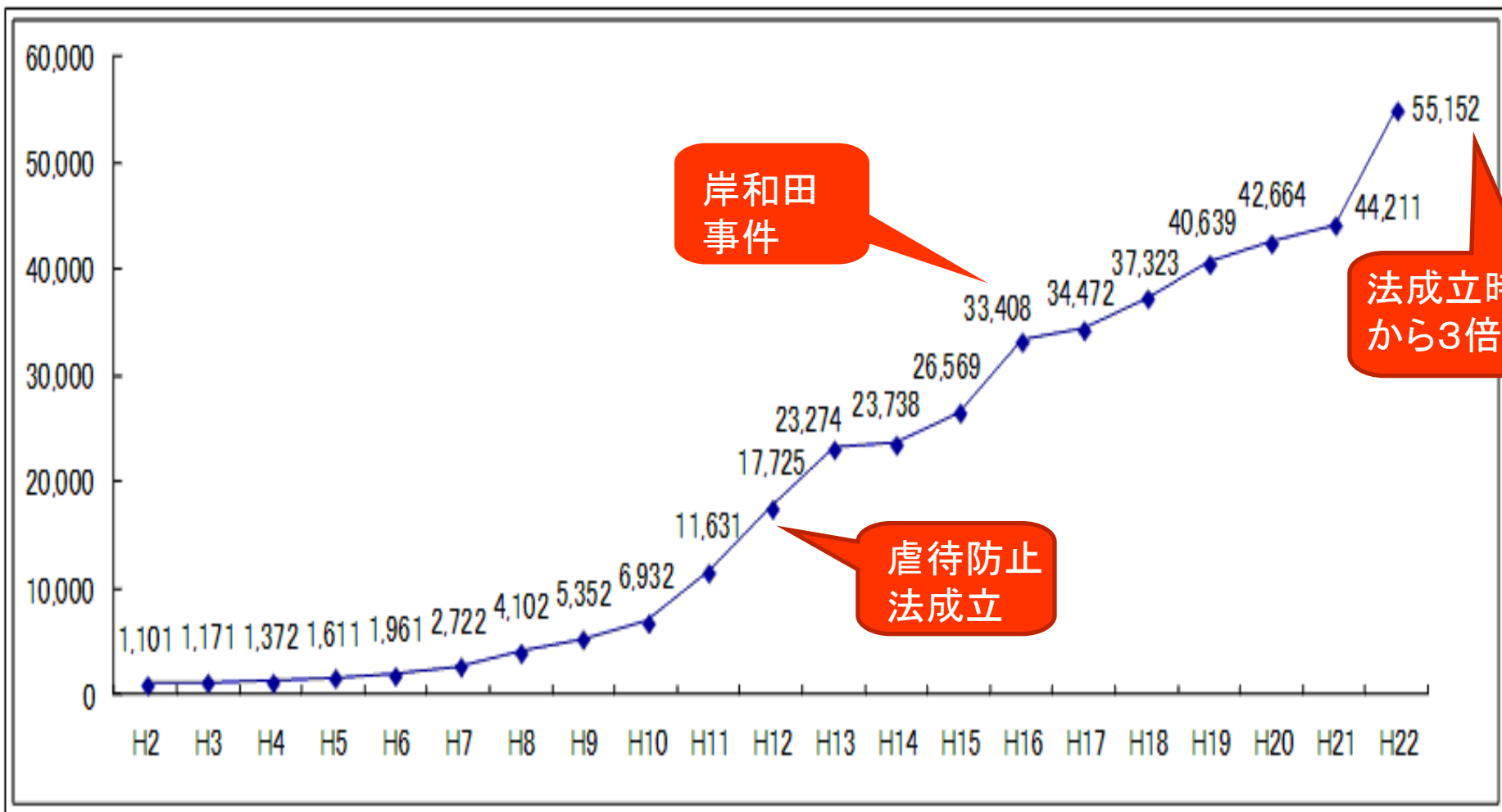
イベント情報: <http://opu-collabo.com/>

本日のポイント

- 子どもをめぐる実態
 - 孤立等の現状
 - 主体性の視点
 - 学校現場の状況
- ソーシャルワークの手法
 - SSWとは
 - SSWの可能性
- ネットワークを機能させる仕組み作り

ますます増える児童虐待

出所：厚生労働省

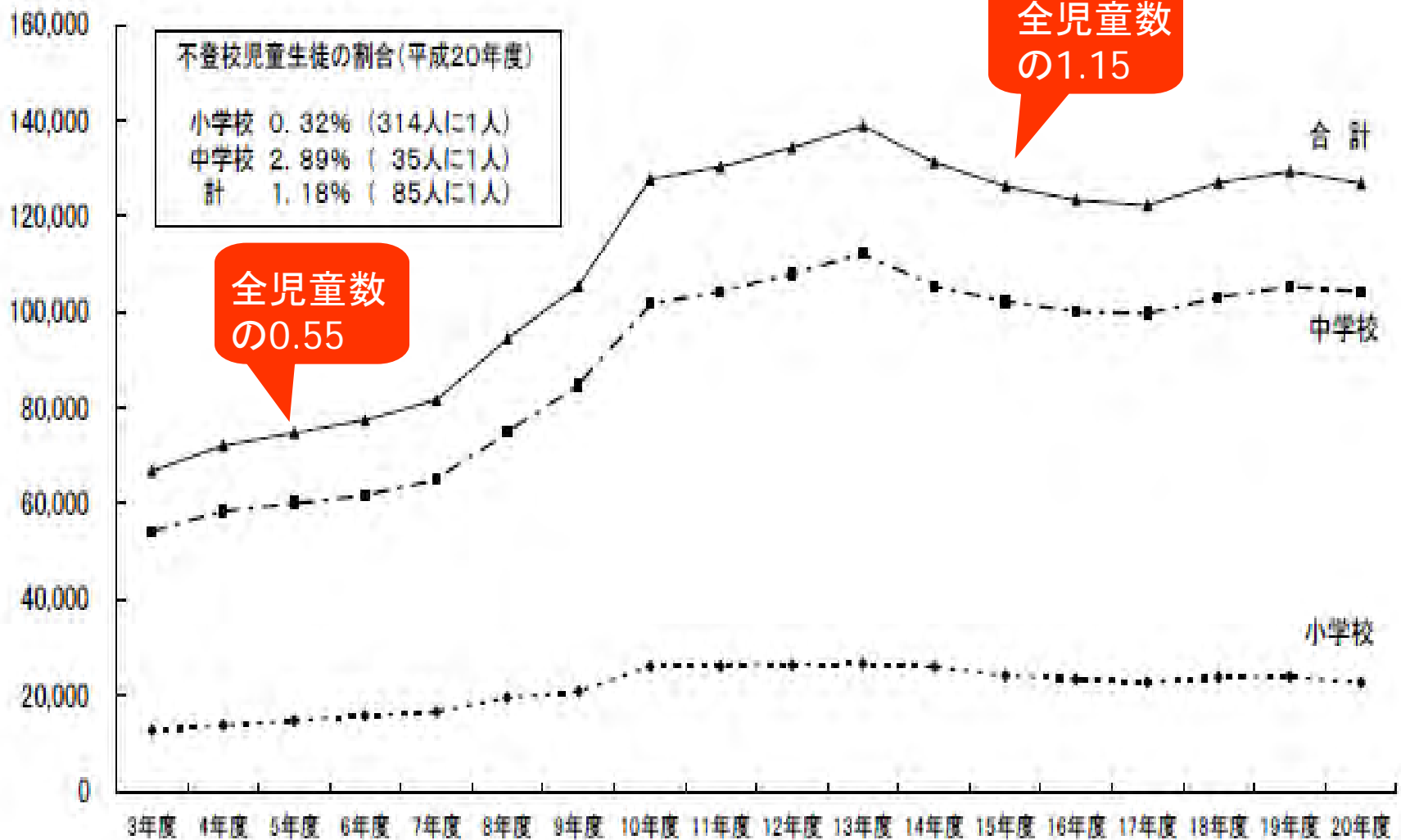


※ 虐待による死亡事件は、毎年50件～60件程度発生しており、実に週に1回のペースで起こっています。

<不登校>

出所: 文部科学省

不登校児童生徒数の推移

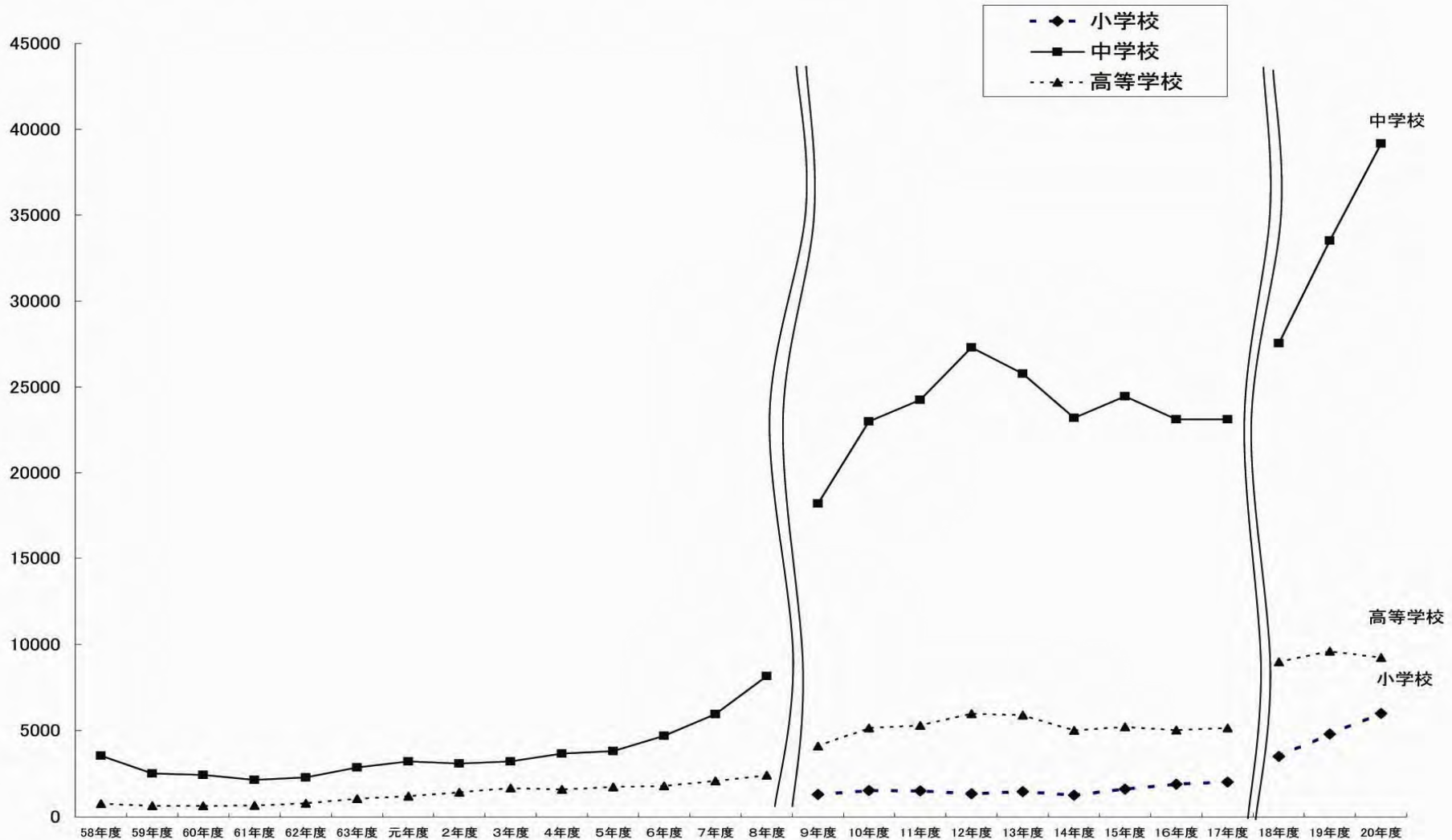


<非行>

出所: 文部科学省

* 2008年度児童生徒の暴力行為は約6万件(前年度比13%増)

(参考1) 学校内における暴力行為発生件数の推移



問題行動の背景1

- 全国児童自立支援施設入所児童約6割が被虐待児(1999年における調査:対象者数1405人,回収率87.7%)
- 少年院全体の約70%が身体的虐待あるいは性的虐待の被虐待経験(法務総合研究所,2000)
- 「粗暴傾向の少年相談事例に関する調査」では,5,6人に1人の割合で被虐待経験(科学警察研究所,2002)

親の実態：背景は・・・

<経済状況>

- 2005年度大阪府SSW配置校（山野,2006）
 - ひとり親家庭 8～28.9%（低い値1校のみ）
 - 就学援助家庭 22～50%
 - 生活保護家庭 1.4～6%（低い値1校のみ）
 - 全国平均の13.74%、大阪市では、33.8%、大阪府24.67%で、都道府県のなかで支給率1位。（2007年度）
 - 母子家庭の平均収入213万円（2005年）、一般世帯の平均の3分の1
- 7
～貧困が見えにくい！

<親自身の抱える課題>

- 児童虐待事例で「親の未熟」52.3%、「親族関係の不和」31.7%、「社会的に孤立」22.8%、「精神的に不安定」22.6%、「多額の借金」20.6%、「診断名のある精神疾患がある」12.8%であった。診断名がついていないが、精神不安定や人格障害の疑いやアルコール依存、暴力傾向、薬物依存など計67.2%となる。（高橋ほか2004）

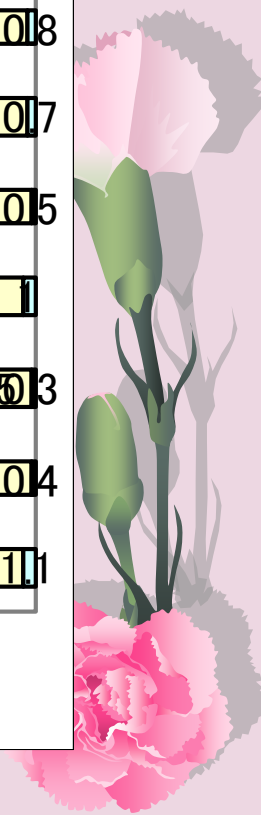
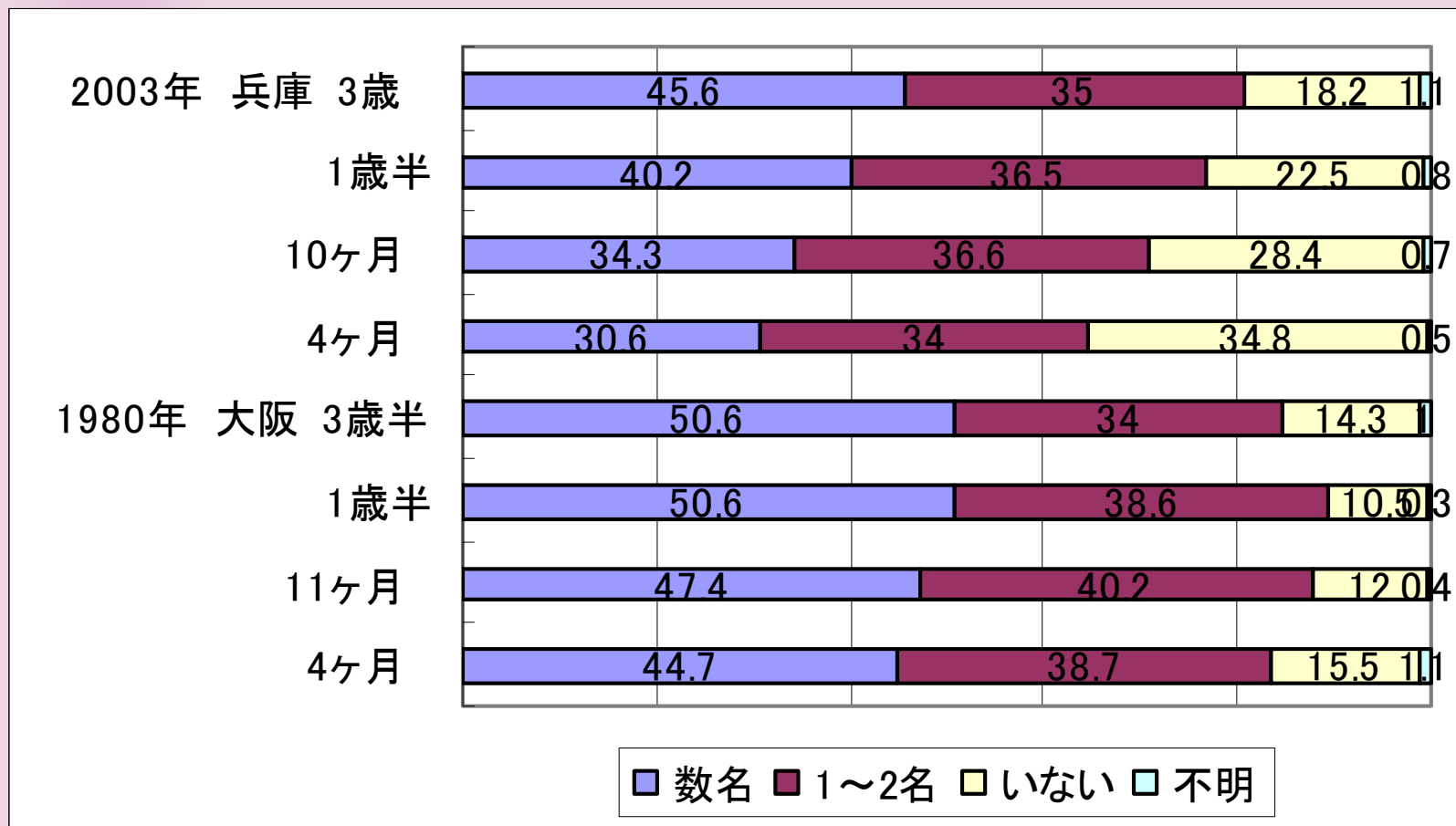
<子育ての不安・孤立>

- ❁ 「大阪レポート」での主な質問項目を網羅している。そのため、「大阪レポート」の23年後の調査として比較検討が可能である
- ❁ 「大阪レポート」とは、大阪府下のある市（当時、人口12万人）に、1980年生まれの全数児（約2000人）を対象に実施された育児の実態調査

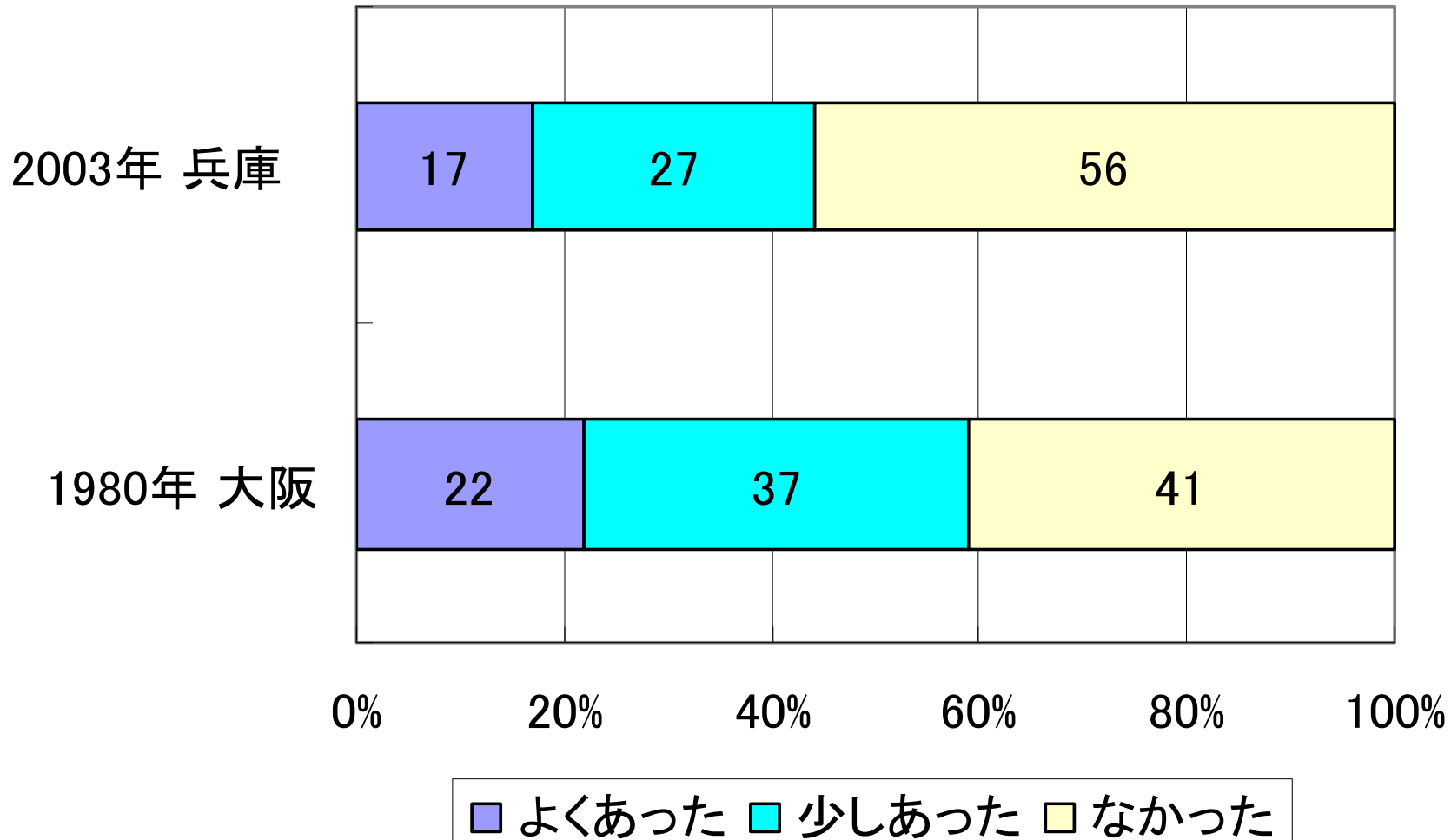
* 平成14～16年度厚生科学研究(3年継続) 主任研究者 服部祥子
(2004)



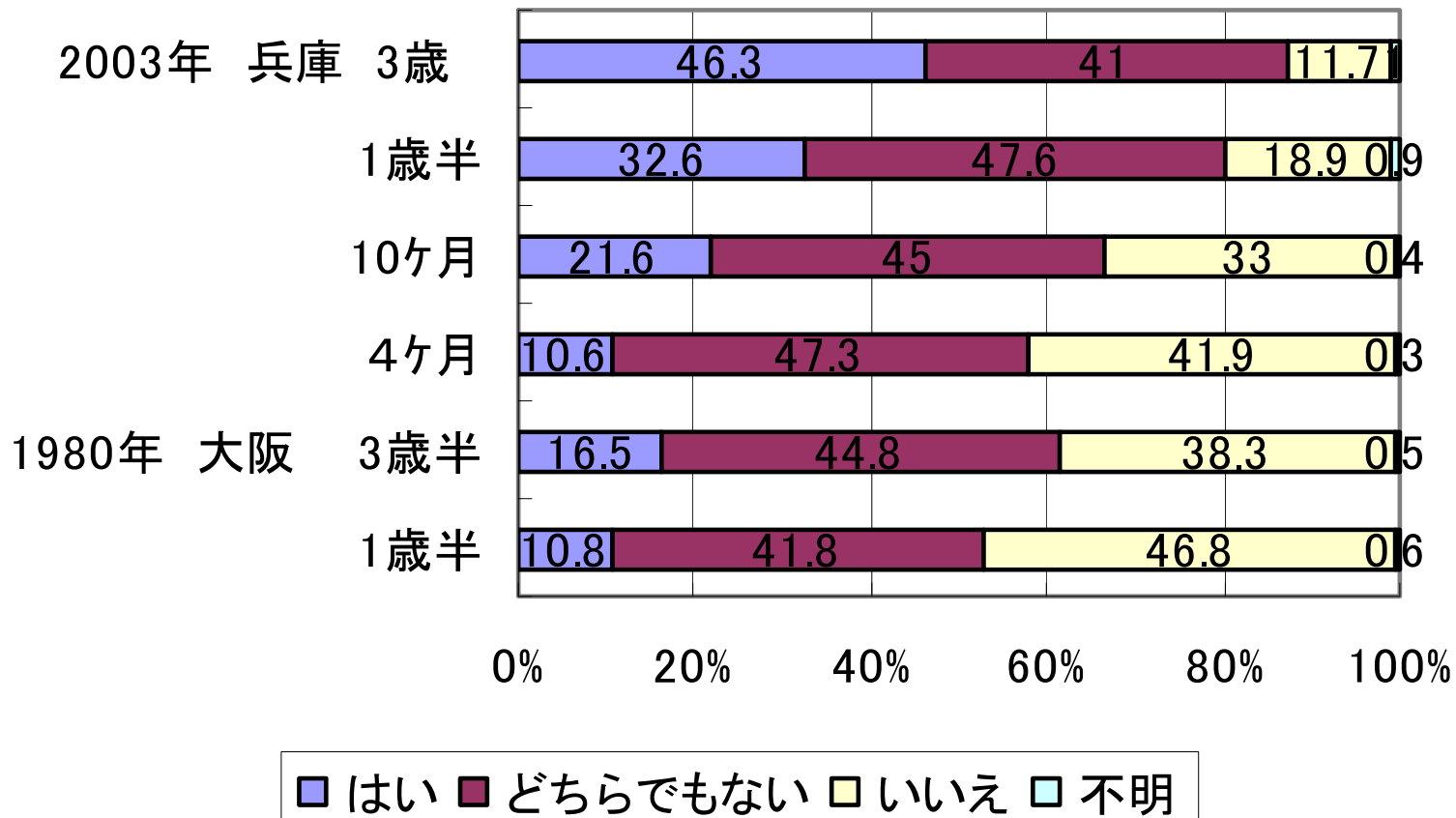
近所にふだん世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする人はいますか



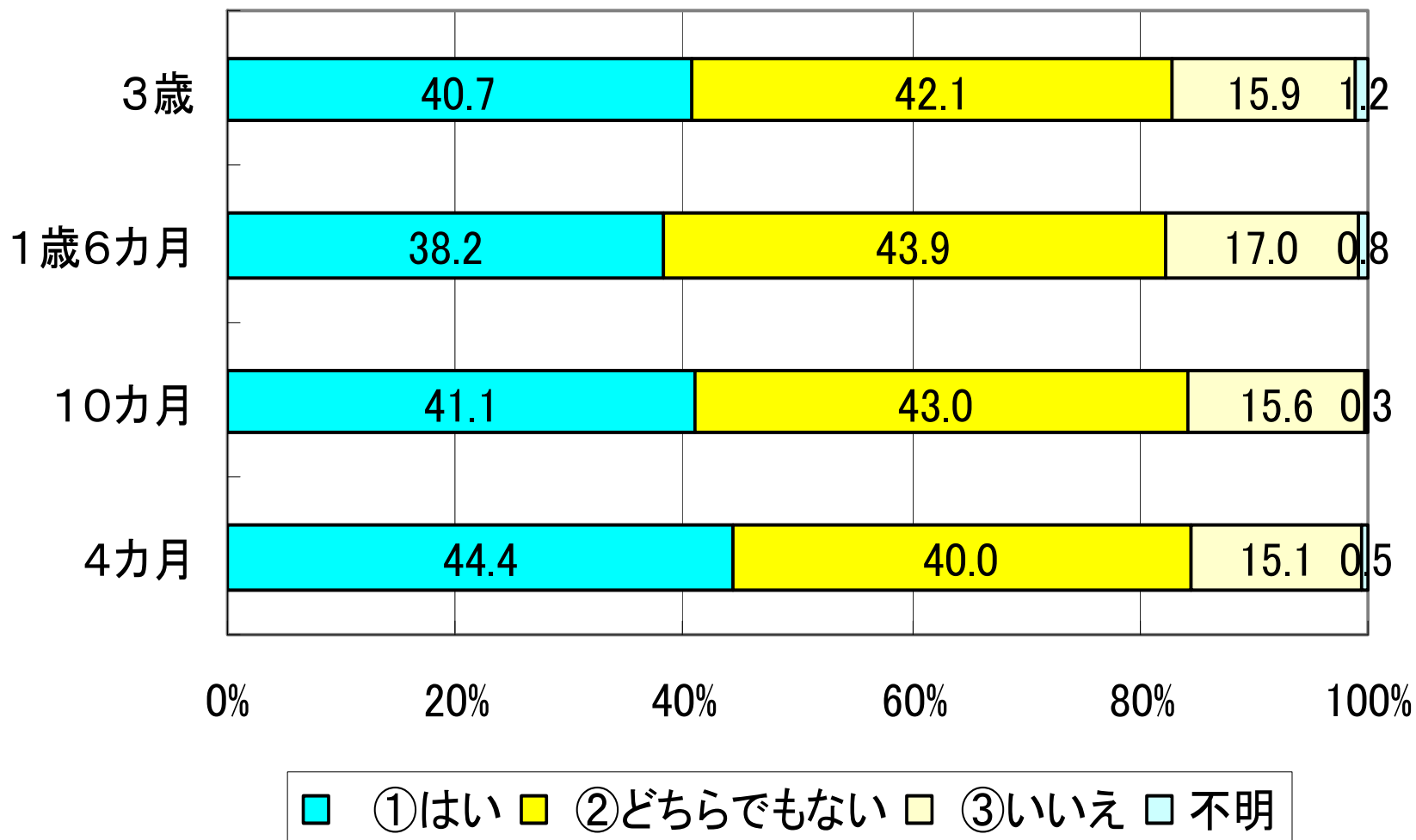
自分の子どもが生まれるまでに、他の小さいお子さんに食べさせたり、おむつを替えたりしたことはあります



子育てで、いろいろすることは多いですか



他の人があなたの育児をほめたり 批判したりするのは気になりますか



<第1次調査>

孤立・不安の増大、評価気になる、「比較」傾向→30%から半数の人⇒**孤立が見えにくい!**

⇒視点を定める必要性

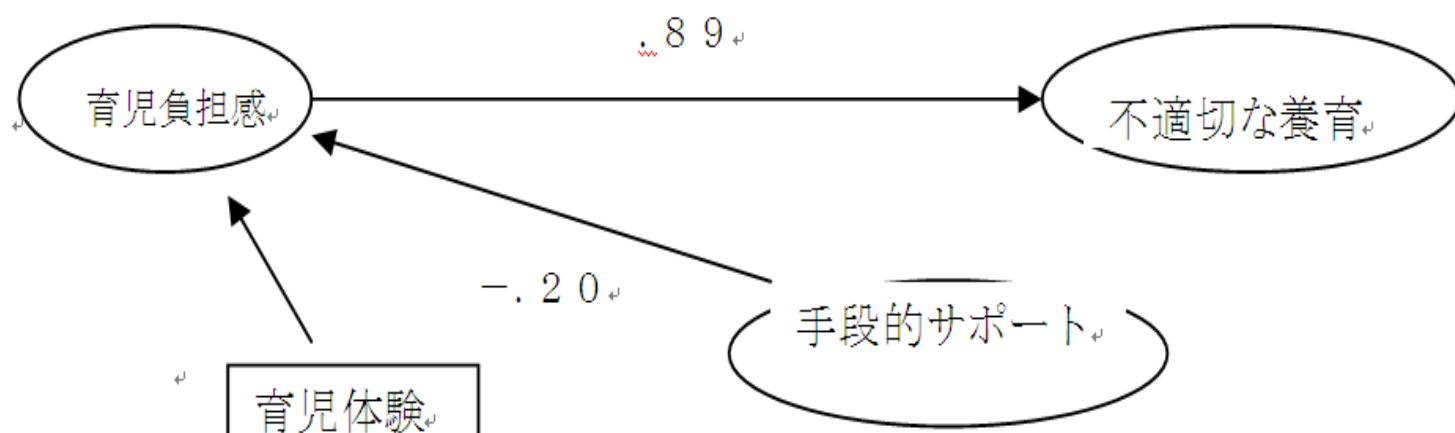
孤立（確認・気付く場がない）

⇒児童虐待に直結

モデルがない（地縁、血縁の希薄化）

自信が持てない

<第3次調査>（育児負担感の軽減に寄与するもの）



*手段的サポートとは

留守の間見てもらう

買い物の間、見てもらう

病院の付き添いの代理 等

子育ての行き詰まり感の実態(山野2011)

子育ての行き詰まり感が高まったり、軽減したりするプロセス



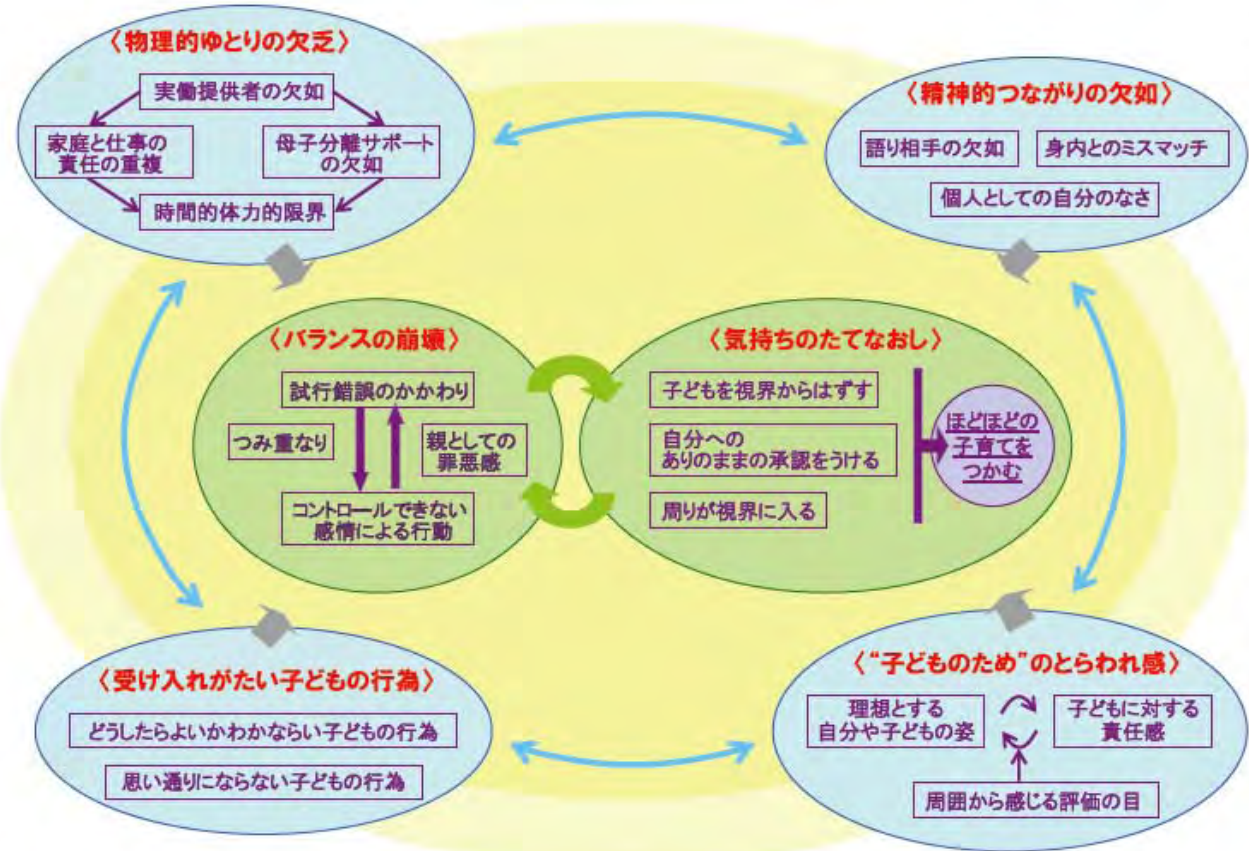
本調査では、インタビュー協力がすべて母親であったことから、子育てするのは母親限定では決まておりませんが、結果は母親のことです。

〈物理的ゆとりの欠乏〉
家事、育児への実際の手助けをしてくれる人がいない(実働提供者の欠如)状況にあり、仕事がある場合には、**家庭と仕事の責任の重複**が合わさり、仕事がない場合には、母親はなかなか子どもから離れられず、**母子分離サポートの欠如**が起こります。仕事の有無に関わらず、**時間的体力的限界**となり、〈物理的ゆとりの欠如〉が生じています。

〈受け入れがたい子どもの行為〉
子どもと過ごす中で、**思い通りにならない子どもの行為やどうしたらよいかわからぬ子どもの行為**にたびたび出会います。これら子どもの行為は母親の希望から外れており、〈受け入れがたい子どもの行為〉といえます。

〈精神的つながりの欠如〉
何気ない会話や子どもの相談などをする相手がおらず、このような**語り相手の欠如**によって孤独感が生じ、さらに、子どもに対する意向が夫や祖父母と異なる**身内とのミスマッチ**や、家族のために時間を費やし自身の時間が持たない**個人としての自分のなさ**にぶつかっていました。これら3つの状況が関連しながら、〈精神的つながりの欠如〉が生じていました。

〈“子どものため”のとりわれ感〉
理想とする自分や子どもの姿と子どもに対する責任感、さらに、**周囲から感じる評価の目が絡み合い**、それらにこだわる〈“子どものため”のとりわれ感〉を持ってしまいがちです。



〈バランスの崩壊〉
日常生活では、ご飯を苦労して子どもに食べさせたり、子どもの寝る時間を守ろうとするなど、母親は**試行錯誤のかかわり**をくり返していましたが、しかし、いっせいに減らない世話が**積み重なり**となって、**コントロールできない感情による行動**に陥ります。はっと気づいた**親としての罪悪感**によって、**気持ちをとり直して、試行錯誤のかかわり**を再びくり返します。このような一連の状況を〈バランスの崩壊〉としました。

〈気持ちのたてなおし〉
〈バランスの崩壊〉から抜け出せない状況から、例えば、一時保育を利用しはじめ、子どもと物理的に離れ、**子どもを視界からはずす**機会ができた、自身のことを否定せず認められる保護者の友達が出て、**自分へのありのままの承認を受ける**ようになったといったきっかけ、また、育児サークルへの参加や2人目の出産などによって、自分の子どもひとりだけでなく、他の子どもや親を見るなど、**周囲が視界に入る**経験をするなど何らかのきっかけによって、3つが全てそろい、何とか**ほどほどの子育てをつかむ**ようになっていました。こうして、〈気持ちのたてなおし〉が行われていました。

実態調査まとめ



*** 孤立が見えにくい！ ⇒そのまま学校へ**

①孤立(確認・気付く場がない)

②モデルがない(地縁、血縁の希薄化)

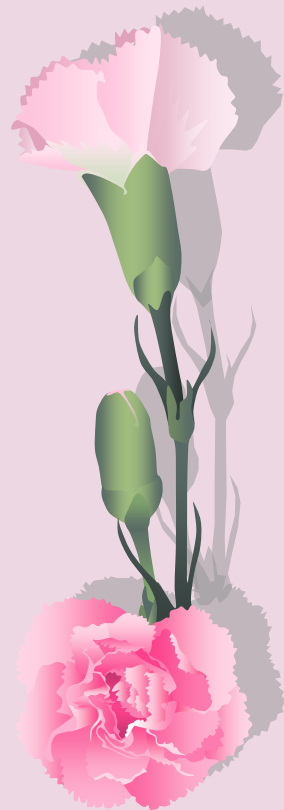
③子育てに不安、自信が持てない

「大切なことは何か」がわかりにくい、選択できない。



家族・本人にとって必要なこと

- 🌸 自信を持つこと＝主体的になる
- 🌸 competence(対処能力)を形成する
- 🌸 つながりを作ること



ニーズ調査と親支援プログラム(参加者中心)の効果

	調査種別	配布	回収	回収率
ニーズ調査	A. 質的調査(サービス利用者)	118 4	590	0.5
	B. 量的調査(利用者含む一般)	301	258	0.86
ニーズ調査 小計		148 5	848	0.57
モデル実施	C. NP効果測定(サービス利用者)	94	86	0.91
	D. ワークショップ(団体)	51	42	0.82
個人調査 合計(団体以外)		157 9	934	0.59

A調査・回収結果

調査場所	配布数	回収数	回収率 (%)
地域子育て支援センター	95	93	97.9
ひろば事業	99	99	100.0
保育所	391	98	25.1
幼稚園	334	116	34.7
在宅子育ての保護者	150	81	54.0
子育てサークル	115	103	89.6
合計	1184	590	

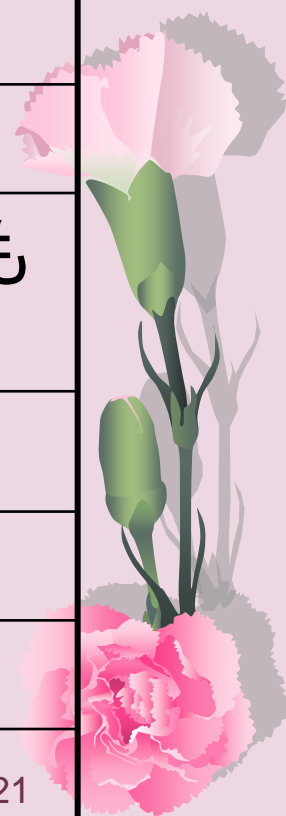
表1. 集団特性 と 利用しているサービスのクロス表

			利用しているサービス			合計
			ほとんどどこも利用していない	頻繁に利用している	その他	
集団特性	一般	度数	134	82	0	216
		集団特性の%	62.0%	38.0%	0.0%	100.0%
	サービス利用者	度数	146	364	3	513
		集団特性の%	28.5%	71.0%	0.6% ₂₀	100.0%

結果3 テキストマイニング①

問1 子育てについて困っていること

クラスター1	子どもの身の安全、外出時に困っていること
クラスター2	子どもの遊び場が少ない
クラスター3	上の子と下の子の接し方
クラスター4	子育てをすることへの不安
クラスター5	病気や急な用事等のとき、子どもを預ける場所
クラスター6	子育てのイライラ
クラスター7	子どもにすぐに怒ってしまう
クラスター8	しつけの仕方
クラスター9	子どもの食事



結果4 テキストマイニング②

問2 子育てに必要なサポート

クラスター1	経済的サポート や子どもの安全	クラスター7	困ったときのアド バイス
クラスター2	気軽に参加でき る機会	クラスター8	近親者や友人 の協力
クラスター3	医療費サポート/ 会社のサポート	クラスター9	一時保育や病 後児保育
クラスター4	地域交流やそ れに対する理解	クラスター10	近所の遊び場 の充実
クラスター5	保育	クラスター11	話を聞いてくれ る機会
クラスター6	少し手をかしてく れるような支援	クラスター12	相談相手

結果4 テキストマイニング③

問4 子育てで大切にしていることは何か

クラスター1	子どもと遊んだり寝たりする時間をたくさん持つ	クラスター8	ほめることとしかることのバランス
クラスター2	規則正しい生活/自然とのふれあい	クラスター9	子育てを楽しむ
クラスター3	いろいろな友だちと接する	クラスター10	子どもを抱きしめる
クラスター4	やさしく接する	クラスター11	笑顔で話しかける
クラスター5	食事や生活習慣、マナー	クラスター12	スキンシップや会話
クラスター6	自分自身がのびのび、ゆったりと	クラスター13	愛情と安心感
クラスター7	子どもと接する際の心がけ		

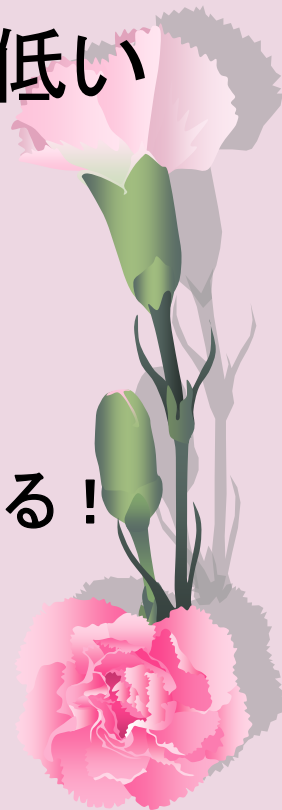
結果4 テキストマイニング④

問5 何か自分が他人の子育てに関してできることがあるか

クラスター1	アドバイスや情報交換	クラスター8	地域の行事への参加
クラスター2	他人に何かをするのは難しい	クラスター9	話し相手
クラスター3	今は少し時間や余裕が必要	クラスター10	サポートする
クラスター4	病院や情報の共有	クラスター11	悪いことをしたら叱る
クラスター5	あいさつや親同士の交流	クラスター12	一緒に遊ぶ
クラスター6	危険なときに注意する/短時間預かる	クラスター13	相談にのる
クラスター7	幼稚園の送迎	クラスター14	愚痴や悩みを聞く

ニーズ調査まとめ

- ❁ ニーズにお金と書いた人は数名
- ❁ 人の繋がりを求めている
- ❁ おや仲間がある人の方が子育て不安低い
- ❁ 「子育てしている自分もいいなと思う」
(34.6%)
- ❁ 「大切にしていること」
子育て当事者が前向きに子育てに信念を持っている！
- ❁ 貢献できる力を持っている
51.9%が貢献できると回答



親支援プログラム (体験学習、価値観尊重)

Nobody's Perfectの効果

🌸 <自記式質問紙調査>

🌸 基本属性: 養育者・子どもの年齢、子どもの人数

🌸 項目: NPにおいて重視されるE(エンパワメント)、S(安全)、P(参加)および上記3つの目標に関連する認知を測定できる項目を検討・作成し、最終的に18項目を使用。4件法により測定。

🌸 <調査期間> 2006年4月から2007年3月

🌸 <調査対象> 茨木市内4カ所で実施されたNPに参加した養育者42名

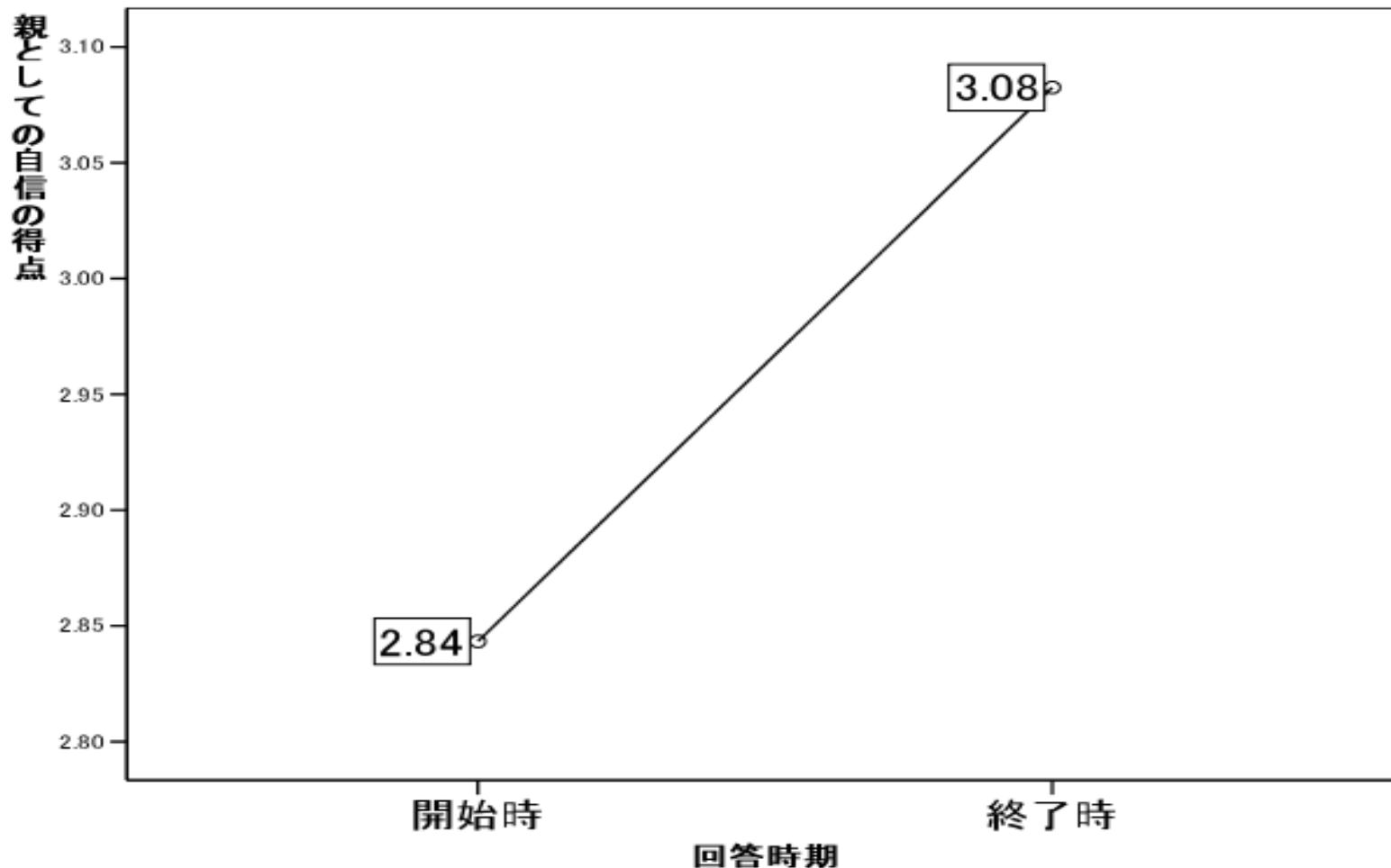
🌸 <有効回答数> のべ86名

(開始前・終了時・同窓会時の3回調査時の回答数)

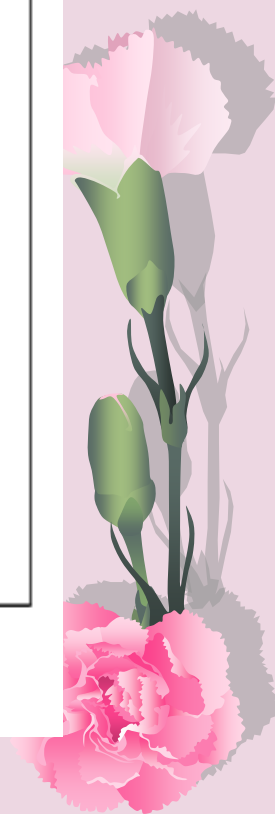


NP受講事前・事後の変化

①「親としての自信」得点



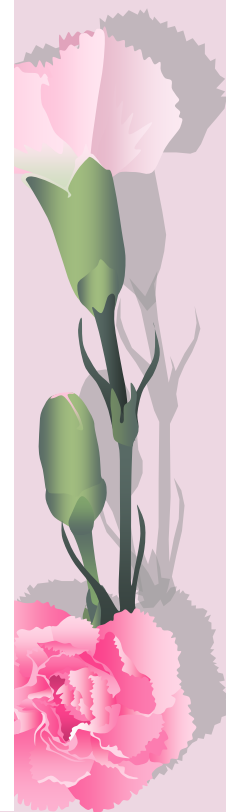
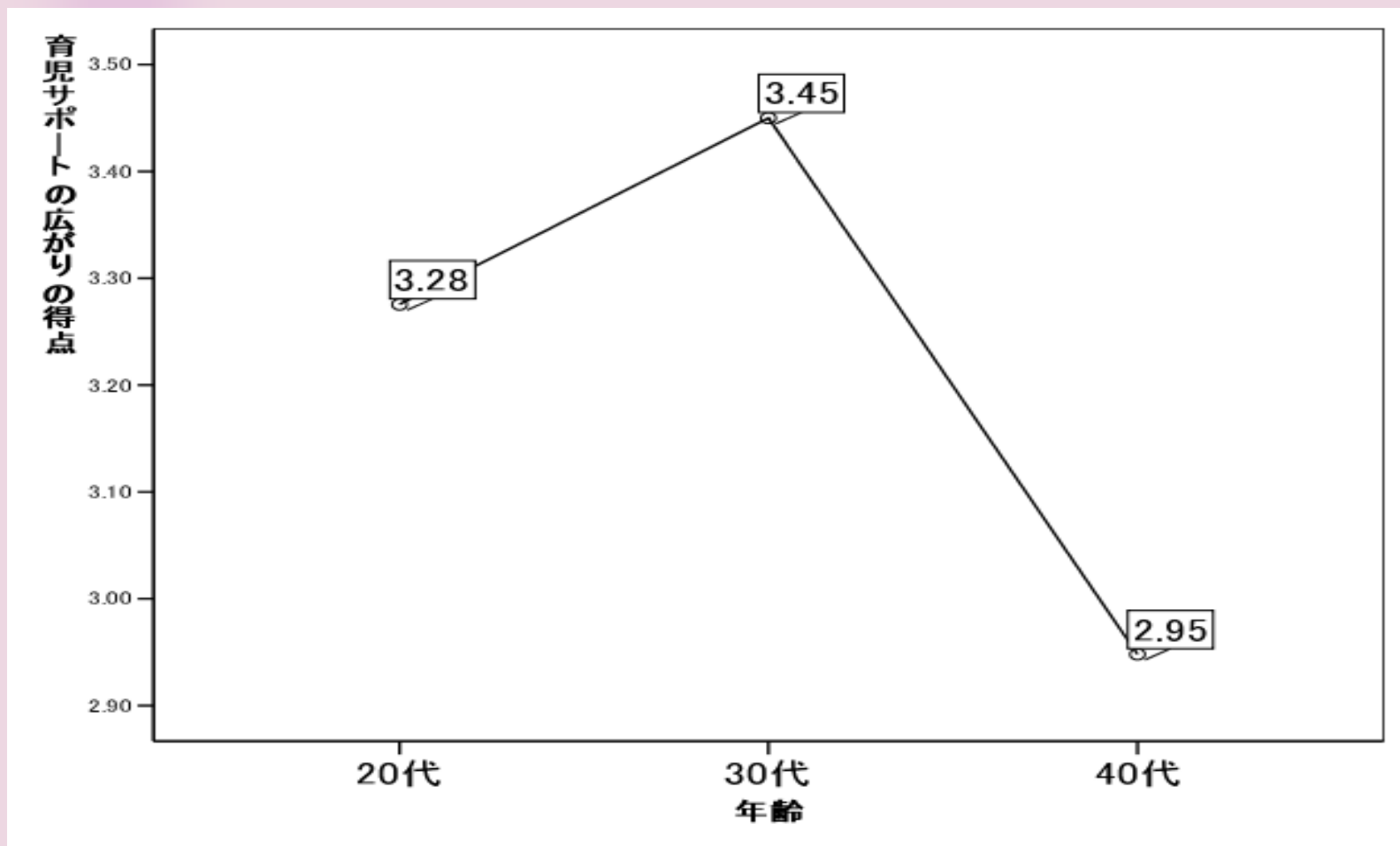
親の年齢による違いは見られなかった



NP受講事前・事後の変化

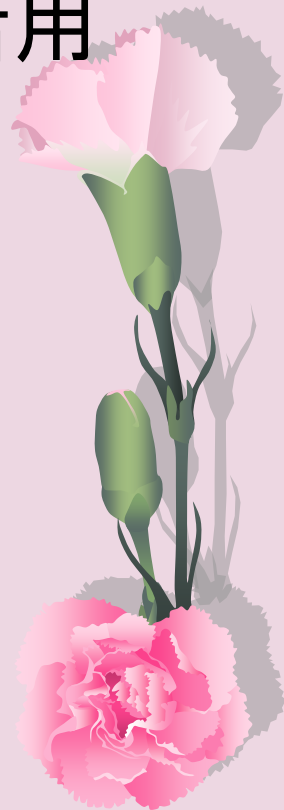
②「育児サポートの広がり」得点

サポートの広がりに変化は見られず、親の年齢による違いが見られた



まとめ

- ❁ 児童虐待は決して特別な問題ではない
⇒ 1/3～半数の家庭で起きる可能性がある
- ❁ 前向きな力のある人30%あり、この力を活用
した地域でのリンクした仕組みを作る
- ❁ 貢献感、主体性はポイント



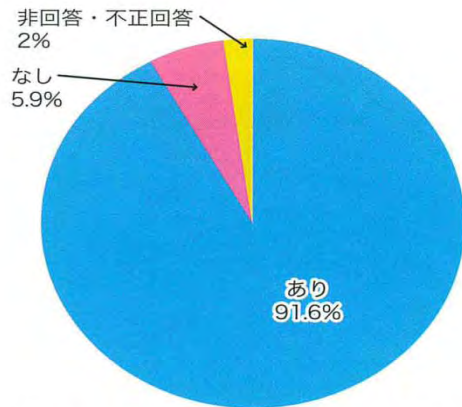
学校現場の実態 (山野2008)

< 科研による調査：大阪府内小中の教師8626人に配布し、3089人の回収(回収率47.14%) >

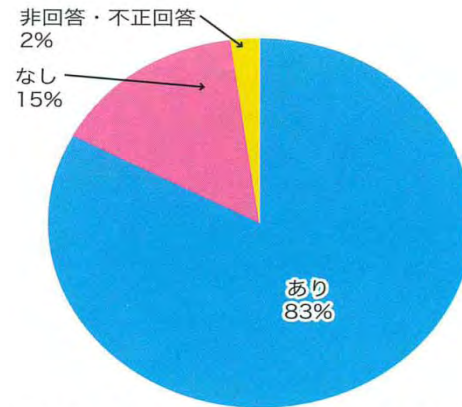
- 親に対して：「持ち物がそろわない76.7%」「子どもの宿題をみていない74.1%」「教材等の支払いが滞る70.5%」「子どもの生活面の指導に協力が得られない66.2%」「服装や食事をきちんと用意していない66.1%」
- 子どもに対して：「他人が傷つくようなことを平気で言う88.8%」「友達との交友関係がうまく取れない83.9%」「何度も指導するが伝わらない78.5%」「ちょっとしたことにすねたりキレたりする78.1%」

学校の実態：教師の困り感

<SSW科研による調査(山野2008)：大阪府内小中の教師3089人(回収率47.14%)>



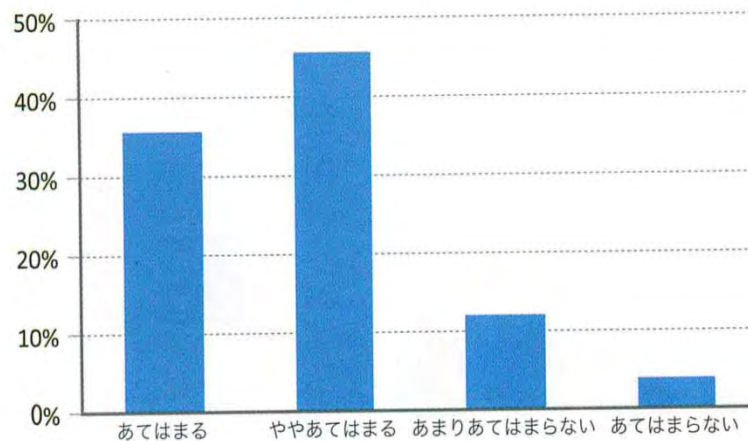
これまで課題を抱えた生徒を担当したことがある



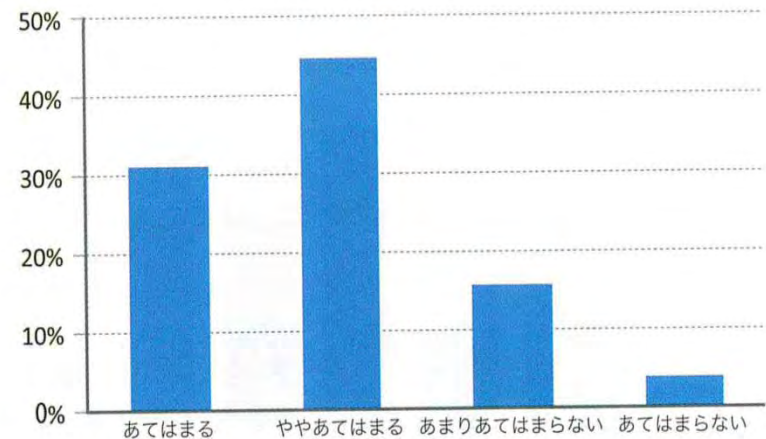
今までに保護者との関係で苦労したことがある

図7 家庭に関する、回答者自身の悩みや考え

難しい家庭のことを理解する人材が必要である



教師に保護者対応のサポートが必要である



学校現場の実態 (山野2008)

- 親に対して:「持ち物がそろわない76.7%」「子どもの宿題をみていない74.1%」「教材等の支払いが滞る70.5%」「子どもの生活面の指導に協力が得られない66.2%」「服装や食事をきちんと用意していない66.1%」
- 子どもに対して:「他人が傷つくようなことを平気で言う88.8%」「友達との交友関係がうまく取れない83.9%」「何度も指導するが伝わらない78.5%」「ちょっとしたことにすねたりキレたりする78.1%」

学校や地域が困っている領域



当事者が利用希望する

②自発的サービス

例: 自主グループ支援

①契約サービス

例: 相談関係の成立する不登校相談など

専門家の判断
必要がない

専門家の判断
必要がある

③啓発・予防

技術: アウトリーチ、アドボカシー
例: 事例検討会、研修

④介入サービス

技術: アウトリーチ、アドボカシー
例: 虐待、非行などモチベーションのない相談

親の放任

子の潜在的問
題行動

当事者が利用希望しない

なぜSSWなのか、その意義

- 貧困、孤立が3割→貧困や孤立が表面的には理解されにくい→決して、ごく一部の問題ではない。学校におけるSSW活動の意義は大きい。
- SW＝モチベーションのない事例にアプローチ
- 小中学校は特に義務教育で子どもの状況を全数把握できること。
- 学校は、生活に密着した、子どもや家族にとって大変身近なところであること。
- 学校に新しい視点が必要＝チーム対応